

目の健康

目が開きにくい 注射で症状を抑制

眼瞼けいれん（眼瞼ジストニア）は、眼輪筋という目の周りの筋肉が自分の意思とは関係なくけいれんしてしまい、目を開けづらくなる病気です。中高年の女性に多いとされています。

目が開きにくい、光に対して異常な眩しさを感じる、目に不快感や異物感があるなどの症状で出ることが多く、ドライアイと間違われることもあります。リズムカルで素早いまぶたの開け閉めができないことが診断では重要になります。ベンゾジアゼピン系の睡眠薬、抗不安薬の服用や精神的ストレスで生じるといわれています。原因がわからないことも多くあります。

く、症状を和らげるために目の周囲の筋肉にボツリヌストキシン（商品名ボトックス）を注射して、筋肉のけいれんを抑える対症療法が中心です。通常3カ月程度で効果が薄くなるため再投与が必要になります。けいれんを起こしている眼輪筋を切除する手術療法もありますが、時間の経過とともに再発し、感覚が鈍くなるなどの副作用も知られているため注意が必要です。

眼瞼けいれんに似た症状として眼瞼ミオキミアがあります。これは主に下まぶたの眼輪筋が数秒けいれんするもので、主にストレスが原因とされ、自然に軽快するため治療は必要ありません。

眼瞼けいれんチェック

- 光がまぶしい
- 目が乾く感じがする
- 目を開けているのがつらい
- 意思とは関係なく目をつぶってしまう
- 片目だけつぶってしまう
- まばたきの回数が多くなった
- 以前のように自然なまばたきができない
- まぶたがピクピクする
- 点眼治療では改善しない症状がある
- 目や目の周囲に違和感や異物感がある
- 口元がピクピクする

大上 智弘 先生 プロフィール

平成14年筑波大学卒業、同附属病院眼科、虎の門病院眼科・茨城西南医療センター病院眼科科長を経て令和元年宮久保眼科副院長■専門分野／白内障・硝子体・眼瞼手術、日本眼科学会認定専門医、網膜硝子体学会、日本眼科手術学会員他

